



Book Talk

編集・発行 海南高校図書館
第5号 2009. 10. 20.

デタッチメントからコミットメントへ

村上春樹から目が離せない。去年はノーベル文学賞への期待が高まった。(受賞したのはフランスのル・クレジオだった。フランス文学専攻だったとはいえ、ル・クレジオの作品を読んだことがなかった私は、それを機に友人と読書会をすることにした。

2009 年はヘルタ・ミュラー

「ドイツ」との発表があったばかりだ。いよいよ来年は村上か?)

今年 5 月には村上春樹の最新長編小説『1Q84』が売り出され、あっという間にミリオンセラーとなった。この流れについて行かねばと、いきつけの和歌山市民図書館で借りようと思ったら、予約 126 番目(ちなみに有田市立図書館は 12 人待ち)。仕方なく他の作品を検索していると、『村上春樹 河合隼雄に会いにいく』が目にとまった。(河合隼雄氏は日本の臨床心理学の土台を築いたすごい人。ユーモアを大切に分かりやす

く心の深層を伝える著書多数。)

この本は村上・河合の対談を収録している。始めに村上は、自身の変化について率直に述べている。「日本にいる間はものすごく個人になりたい」と考えてヨーロッパに 3 年。(430 万部売れた『ノルウェイの森』が書かれたのはこの時期)、アメリカに 3 年半、独りで小説を書いて生きてきて「その最後のころから逆に、自分の社会的責任感みたいなものをもっと考えたいと思うようになってきた。」「最後はほんとうに(日本に)帰りたくなりました。」と心情を語っている。その変化は、「以前はデタッチメント(かかわりのなさ)というのがぼくにとっては大事なことだった」が、最近「コミットメント(かかわり)ということについてよく考える」とも表現される。

また、最近小説が力を失ったと世間で言われているが、自分はそうは思わないと次のように述べている。

「小説以外のメディアが小説を越えているように見えるのは、それらの提供する情報の総量が圧倒的に小説を越えているからじゃないかと僕は思っています……小説の本当の意味とメリットはむしろその対応性の遅さと、情報量の少なさと、手工業的しんどさにあると思うのです。それを保っている限り、小説は力を失わないのではあるまいか。」



河合は「その対応性の遅さと、情報量の少なさと、手工業的しんどさ」こそ心理療法のメリットでもあると村上説に喜ぶ。加えて、現代の風潮はまったく逆の「できるだけ、早い対応、多い情報の獲得、大量生産」をめざして動いているため、「この傾向が人間のたましいを深く傷



村上春樹がたいへんだ

矢田先生(英語科)の

つける傾向を生み出しているのです。」と分析する。

対談から十数年が経ち、世界は戦争・災害・経済金融危機などなどグローバル化の中で苦しみと不安ばかりが広がっているように見える。村上の「フィクション(小説)は決して力を失ってはいない」という思いは、世界中の読者の存在により証明されているだろう。「コミットメント」については、今年 2 月、「エルサレム賞」受賞式に批判もある中であえて出席した時のことが印象深い。村上は講演で、「高くて固い壁と、それにぶつかって壊れる卵があるとしたら、私は常に卵の側に立つ」と、ガザの状況をメタファーで表すとともに自身の立場を明言し、世界に感銘を与えた。

さて、次は何を読もうか。村上がアメリカ滞在中に書いた長編小説、河合がものすごい「コミットメント」の話だと言う『ねじまき鳥クロニクル』にしよう。その 3 部作は和歌山市民図書館の閉架に収められ、予約してる人もないようだ。

知っとこ! 河合隼雄 (1928 — 2007)

臨床心理学者、心理療家。兵庫県に生まれる。1952 年(昭和 27) 京都大学理学部卒業。高校教師(数学)になるが、心理学を勉強するために京都大学大学院に入学。59 年カリフォルニア大学に留学。62-65 年スイス、チューリヒのユング研究所に留学。日本人で初のユング派精神分析家の資格を得る。帰国後、京都大学教授、国際日本文化研究センター所長などを歴任。京都大学名誉教授

英語で読もう!

村上春樹「エルサレム賞」受賞講演より

I have only one reason to write novels, and that is to bring the dignity of the individual soul to the surface and shine a light upon it. The purpose of a story is to sound an alarm, to keep a light trained on the System in order to prevent it from tangling our souls in its web and demeaning them.



[和訳例] 私が小説を書く理由はただ一つです。個々のたましいが持つ尊厳を浮かび上がらせ、それに光を当てることです。物語の目的は、「システム」の網の目に私たちのたましいがからめ捕られ、傷つけられることを防ぐために、「システム」に対する警報を鳴らし、注意を向けさせることです。

(編集部より) 河合さんの『こころの処方箋』は海南高校 50 選に選ばれています。他にも『日本文化の新しい顔』『昔話と日本人の心』『快読シェイクスピア』など心理学以外でも多数の著作が本校図書館入っています。村上作品は、上に挙げられた作品はもちろん、他にもたくさんあります。ぜひ読んでみてください。

フィクション(小説)は決して力を失ってはいない。